

# 皮膚腫瘍

谷口 恒平<sup>1)</sup>, 能勢 聡一郎<sup>2)</sup>

1) 岡山大学病院 病理診断科

2) 岡山済生会総合病院 病理診断科

90歳代 男性

右耳介皮膚の腫瘍性病変。1~2ヶ月程度で比較的急速な増大を示す腫瘍であり、切除された。

<問題点>

組織型と良悪の鑑別

## 結腸病変

岡山済生会総合病院

能勢聡一郎, 谷口恒平, 浜家一雄

70歳代女性

2ヶ月前に近医での内痔核切除術を施行する際に行われた大腸内視鏡検査で、右側結腸粘膜の色調不良・浮腫、小びらんが認められた。退院の1ヶ月後に亜イレウス状態となり、同院に再度入院し2週間の保存的治療により軽快した。

さらに今回入院の2日前に腹部膨満・便秘となり、経口摂取ができなくなった。翌日水様の嘔吐・腹痛増強がみられたため近医を受診した。同院での腹部CTで上行～横行結腸を主とした腸管拡張が認められ、根治的治療目的で当院救急科/外科へ紹介された。イレウス管の挿入により症状の軽減を図ったのちに結腸切除を行った。





## 脳腫瘍

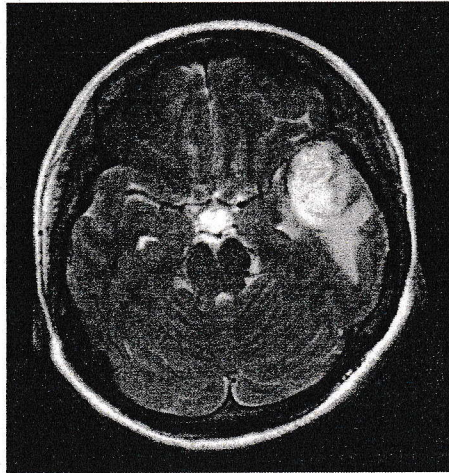
香川県立中央病院 病理診断科  
安藤 翠、中村 聡子、溝渕 光一

40～50歳未満・女性

約15年前に回転性めまいで加療を受けた既往あり。13年前に嗅覚異常とてんかん発作のため当院を受診した。MRIにて左側頭葉の一部に脳回の変形と軽微な信号異常を指摘された。良性腫瘍として経過観察していたが、腫瘍の増大を認めたため、腫瘍摘出術が施行された。

MRI：腫瘍辺縁はring状に造影され、周囲に著明な浮腫を伴う。

PET：SUVmax 14.85のFDG集積あり。





## 右卵巣腫瘍

池田知佳 1)、柳井広之 2)、吉野正 1)

1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病理学(腫瘍)

2) 岡山大学病院 病理診断科

### 【症例】

10 歳代女性

### 【現病歴】

手術 2 ヶ月前に初潮が到来、手術 1 ヶ月前に月経が止血しないため、医療機関を受診。腹部膨隆あり、骨盤内から剣状突起に及ぶ多房性腫瘍を認めた。ホルモン産生腫瘍を疑われ、切除された。

### 【肉眼所見】

約 20 cm 大の多房性囊胞を認めた。明らかな充実成分はみられなかった。

### 【問題点】

病理診断

